

胡錦濤

(中国国家主席)

の「領土&軍事」大膨張戦略を撃つ

惠谷治

大增ページ 冬の特大号 第1弾

3号連続
SPECIAL企画

「中国を丸裸にする」

国際情報誌

サピオ

INTERNATIONAL
INTELLIGENCE
MAGAZINE

SIMULATION REPORT

日本企業買収からエチゼンクラゲ大量発生まで、この巨大なブラックホールに呑み込まれるな

中国13億人の 「物欲」「食欲」「性欲」

これが世界を
狂わせる!

小学館

12/14

特別
定価 ¥450

SPECIAL REPORT

忘れ去られた
「戦場の自衛隊」

どうするイラク撤退!

その時期は？大義名分は？手続きは？

「自衛隊撤退Xデー」かくあるべし

ついにこの12月、一昨年イラク・サマワに派遣した自衛隊の任期終了を迎える。すでにスペイン、オランダ、イタリア、ニュージーランド、タイを始め世界各国が軍隊を撤退させ、イギリス、オーストラリア、ポルトガル、ポーランド、チェコなどが撤退の準備を始めた中で、今後、日本はどのような選択をするべきなのか。

自衛隊の存在意義を再度問われるといった意味でも注目の集まるこの問題について、各方面の識者に意見を聞いた。

「出口論」なき人道復興支援から撤退すべき

まずは、現状の自衛隊派遣に問題がある。私が第一次派遣要員の編成に携わったある関係者から聞いた話によると、自衛隊が今回のような任務につくには、自己完結したひとつの単位で最低でも750人が必要だという。それだけの人数がいて正常な活動ができると。また指揮体系や活動のための十分な装備が備えられているのか等、法的側面を含め必要最低限の条件があるはずである。しかも「イラク復興支援特別措置法」ですら600人とされているのに、500人以下で派遣することは、自己完結の原理からみて危険と負担が大きいのだ。

にもかかわらず派遣してしまつた。つまり法的整備、物理的整備が十分にできていないということなのだ。これはアメリカとの関係から派遣せざるをえず、かといって一度に多くの自衛隊を送ると国民も納得できないという、いわば妥協の産物なのだ。

を撃った。でも、そのポケットの中にあつたのは実は万年筆だった、ということ。しかもこれはアメリカが仕掛けたのであつて、日本には主体性のない戦争だ。誤射であり、正義のない戦争であるということがわかつたのだから、もはや撤退すべきだろう。

アメリカとの関係についていろいろと



松原 仁

MATSUBARA Jin

民主党・衆議院議員
国防省設置を早期に実現する
議員連盟事務局長

こうした不十分な状態で、もし自衛隊員が命を失うことになってしまったらどうなるだろうか。

今日、せっかく自衛隊を憲法にきちつと位置づけようとする世論が高まる中で、自衛隊問題は一歩進んで十歩後退ということになりかねない。

そして今問題なのは、その「出口」についてどう考えるかだ。いついかにして撤退するか。そもそも今回の「入り口」はアメリカの「誤射」だった。この戦争には、イラクには大量破壊兵器があるという正義があつたはずだが、結局のところ見つからなかつたのだから。

例えて言えば、向き合う相手がポケットに手を入れて銃を取り出すように見えただから、自分の命を守るために先に相手

言う人もいるが、すでにアメリカとの関係においては日本も十分に役割を果たしてきた。少なくとも、イギリスでさえ撤退しようとしているのだから、日本に撤退できない理由はないのだ。

言い換えれば、「出口論」なき人道復興支援を目指す日本にとって、今回は撤退するには絶好のタイミングなのである。

延長反対派

反対派

【PROFILE】1956年東京生まれ。89年東京都議会議員選挙にて初当選。2000年衆議院議員選挙にて初当選。